

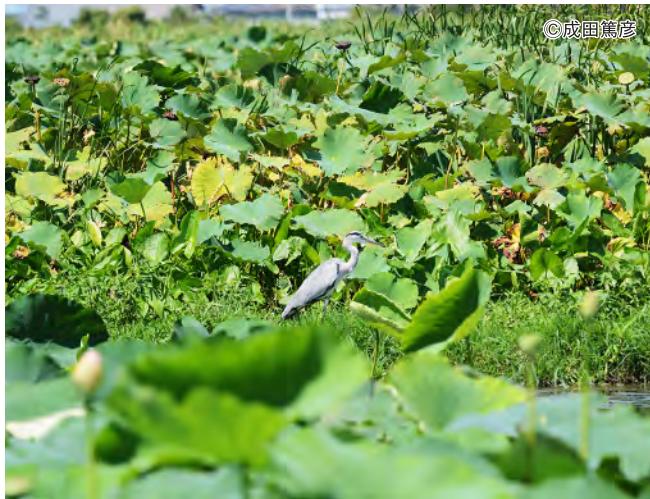
かずさの博物誌

ギンヤンマ

～トンボ釣りのヤンマ～

文・写真／成田篤彦

2015.8.20



▶ハス田の風景 アオサギが中央にいる
2014年9月2日 木更津市



▶連結するオス(上)とメス(下)
2014年9月2日 木更津市

memo

トンボ目 ヤンマ科

ギンヤンマ

腹長約五十～五十八mm。都市化した地域では減少しているが、上総ではハス田や堰などで4月下旬～十月下旬まで見かける。連結しながら、水生植物などに産卵する。

参考文献 日本民俗文化資料集成 第十二卷 三一書房

去年秋のハス田。ハスの緑色の葉がそよ風で揺れていた。夏に咲いた花はハチの巣のよう穴が並んだ花床（種が入っている）になっていた。

ギンヤンマが私を追い抜き、ヨシ原の上空を飛んで行った。不思議なことにギンヤンマの遠ざかる姿はとても大きく見える。彼らの後ろ姿が大きく感じるのは私だけではないらしい。

「蜻蛉行くうしろ姿の大きさよ 中村草田男」という俳句があった。

ギンヤンマは頭、胸が黄緑、腰がスカイブルー、長い腹は赤茶色で黒や黄色の模様がある。透明なはねとつやのある体と緑の彩が、美しい。

やがて、アオサギが飛んで来た。ギンヤンマは上総を代表するヤンマだ。

オスもメスも頭や胸の色がハスの茎や葉の色にそつくりだ。このハス田にはアオサギやシラサギなど多くの天敵がいるが、ハスの茎の間に入り込めば、気付くのは難しいと思う。

蜻蛉釣りけり昼の辻 関更」の俳句があつた。

それを読んで昭和二十年代の後半、東北の田舎で年上の子に教わったトンボ釣りをしたのを思い出した。

トンボ釣りとは竹などの先につけた糸の端にメスのトンボを結び

別のギンヤンマが、ハスがまばらに生える水面を往復していた。

突然、畦のそばで二匹のギンヤンマが絡み合つたが、姿が消えた。



▲飛ぶギンヤンマのオス 2014年9月14日 木更津市



▲堰の近くの林で休むギンヤンマのメス 2007年5月2日 木更津市

トンボ釣りには捕る仕掛けの作り方、投げ方の技術、ルール、名前、口ずさむ呪文のような唄など各地方で独特のやり方がある。上総でもトンボ釣りで遊んだ方がおられる。早い時期に上総のトンボ釣りを記録し、子供たちに伝えておきたいものである。